

合石

織手石改
牛首紬®

加藤改石がま口シリーズ



牛首紬とは

日本三名山、加賀の霊峰白山の麓、石川県旧白峰村（現白山市白峰・桑島）は古くは牛首村と呼ばれ、1959年（平治元年）平治の乱に敗れた源氏の落人の妻が嶋村（白山市桑島）の婦女に教えた機織りが伝わっていました。それが牛首紬の起源だと伝えられています。釘を抜けるほど丈夫なことから**釘抜紬**（くぎぬきつむぎ）とも称され、日本三大紬の一つに数えられています。

絹糸の原料であるカイコの繭は、通常一頭のカイコが作るものですが、まれに二頭のカイコが入っているものがあり、これを『玉繭（たままゆ）』といいます。

玉繭は二頭のカイコのはいた糸が内部で複雑に絡み合っているため製糸は難しく、普通はいったん真綿してから糸にしていますが、白峰の人々は先祖伝来の技でこの繭から直接糸をつむぎ緯糸とし、通常繭から取った生糸を経糸として織り上げてきました。これが牛首紬です。



改石手織牛首紬の特徴

加藤手織牛首つむぎでは、使用する糸は全て座繰りで手引きしています。経糸は単繭約八十個、緯糸は玉繭（二匹の蚕が作った繭）約六十個から甘く撚りをかけながら引き出され、それぞれ一本の糸となります。こうして引かれた糸は空気を多く含み、織りあがった生地は強くしなやかで通気性に富み、夏涼しく、冬暖かい織物となります。

玉繭の糸は何本もの繊維がからみつくため所々に節ができてしまいます。この節は織物にしても残り、牛首紬の特徴となっています。

全て手織（高機使用）で織られており、玉繭の生み出す節の模様もまた改石手織牛首紬の特徴となっています。

明治中頃から変わらぬ工程で織り続けているのが、改石手織牛首紬です。



牛首紬の工程 1



1. 繭について

蚕が作る繭には一匹で作る単繭と二匹以上で作る玉繭とがあり、玉繭は二匹のカイコのはいた糸が不規則に重なり合っているため製糸工程で高度な技術を要します。加藤手織牛首つむぎでは単繭を経糸に玉繭を緯糸に使用しています。



2. のべひき

使用している機械は座繰り製糸機（上州式）と呼ばれるもので、明治初期、日本に入ってきた形をそのまま使っています。繰糸釜の湯に繭を浮かべ経糸は単繭約80個、緯糸は玉繭約60個から1本の糸を引き出します。そのときの湯の温度は約83度です。糸の太さを揃える技能を要する仕事です。



3. 管巻き

・ のべ枠から管に巻き取る。古くは1本1本手で巻き取っていましたが現在は管巻き機により1度に12本まで巻くことができるようになりました。

牛首紬の工程 2



4. のべつむぎ

- ・管から引き出した糸に少しだけ「撚り」をかけながら大枠に巻きとり「かせ」を作ります。経糸約2500m緯糸約3200mを1かせとします。



5. 糸を練る（精練）

- ・生糸はタンパク質の一種のフィブロインとセリシンの二重構造となっており、セリシンは蚕が繭の形を作るための接着剤となります。フィブロインが絹の感触、光沢を生み出すためセリシンを取り除く作業（精練）をし、石けんと重曹で、経糸1時間5分、緯糸1時間15分、大釜でセリシンを煮溶かし、その後糸に残った石けんやセリシンを落とすため丁寧に水洗いし脱水します。



6. 糸はたき

- ・糸を何度もしゃくるようにしてはたき、1本1本の糸にさらなる空気を含ませます。
- ・この作業により蚕が糸をはいたときのうねりを取り戻し、糸の配列を整えます。工程の間に何度も行ふことにより独特の光沢とふんわりとしたさわわり心地が生まれてきます。

牛首紬の工程 3



7. 糊付け

- ・ 経糸は織機にかけたとき「綜（へ）」により「うわそ」「したそ」に分かれてかみ合います。その間を緯糸が通るので口空きをよくしなければなりません。
- ・ 経糸に糊付けする糊の原料は米粉で、糸に手でまんべんなく糊を付けていきます。



8. かせしぼり

- ・ 糊付けされた糸を「かせしぼり機」を使い糊を搾り取ります。手でハンドルを回し糊を搾り取る、というきわめて単純な道具であるため、糸に無理な力が加わらず、その特性を失わない利点があります。



9. かせくり

- ・ 経糸、緯糸ともかせを「ぜんまい機」にかけて小枠に巻き取ります。昭和20年代までは1かせずつ手で繰っていましたが、その後動力を用いて1度に16かせまで同時に繰ることができるようになりました。

牛首紬の工程 4



10. 整経

・ 経糸を巻き取った枠を46個から54個並べ整経台の大枠に巻き取っていきます。経糸の数は用途に合わせて894本から1080本とします。15反分を1巻きとします。整経したものを織機にかけるため巻き取り棒に巻き取ります。



11. 管巻き

・ 「ぜんまい機」で小枠に繰り上げてある緯糸を、織機にかけるため小さな管に巻き取ります。以前は1本1本手で巻いていましたが、現在は管巻き機を使い1度に12本まで巻き取ることができます。



12. 機織り

・ 高機と呼ばれる機械で、「綜（へ）」に通した経糸は、両足交互の足踏みにより「うわそ」「したそ」分かれて口が開き、その中を緯糸を巻いた管を差し込んだ「ひ」が右手の紐の操作により左右に飛びます。「ひ」が1回飛ぶごとに左手で握った「かまち」でうちこみます。両手、両足の力配分、タイミングが牛首紬の風合いを作ります

加藤手織半首紬の着物



「パーティ・コンサート・お茶席・お食事会・観劇」など、様々なシーンでお召頂けます！



「シックでモダン」な装いにピッタリです

フォーマルにも着たいし、
ちょっとオシャレにも着たい*



着物以外でも！



加藤改石牛首紬 がま口シリーズ商品化

4色 4型



桜色



青色



紅紫色



黒色

コインケース・ミニバッグ・スクエアクラッチバッグ・サークルスクエアバッグ

ほとんどの作業工程が明治中頃から変わらぬ手作業で行っています。
また、着物地として利用できない部分を有効利用しています。

それがエコといえるのではないのでしょうか。

「がまロシシリーズ」について、

- 改石手織牛首紬の良さを多くの人に知っていただくため、身近に手にすることができる物としてがま口を作りました。
- 手作りで、特に染めは引き染めで独特の風合いとなっており、一点一点色の出方が違いユーザーには世界で一つの物をお届けすることができます。
- 色は4色で白山麓の4季をイメージしました。
- 和装・洋装にかかわらず使っていただきたいこと、また、場面に合わせて使用できるようにと4型にしました。

ご清聴ありがとうございます

